

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- | | | | | |
|---|------|------------------------------------|--------|--------------------|
| 1 | 会議名 | 岐山高等学校 学校運営協議会 (第1回) | | |
| 2 | 開催日時 | 令和5年5月24日(水) 10:00~12:10 | | |
| 3 | 開催場所 | 岐山高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した | | |
| 4 | 参加者 | 委員 | 河崎 哲嗣 | 岐阜大学教育学部 数学教育講座 教授 |
| | | | 井關 敦子 | 岐阜大学医学部 母性看護学 教授 |
| | | | 内田 真樹 | 長良東民生委員 主任児童委員 |
| | | | 大音師 敦子 | 本校PTA副会長 |
| | | | 増田 勝美 | 長良東小学校地区 自治会長 |
| | | | 若井 悟 | 本校元同窓会長 |
| | 学校側 | 石神 政幸 | 校長 | |
| | | 溝下 肇 | 教頭 | |
| | | 舘 弘士 | 教頭 | |
| | | 川口 晋 | 教務部長 | |
| | | 有賀 浩樹 | 生徒指導部長 | |
| | | 小森 美穂 | 進路指導部長 | |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 「科学的な考え方と主体的・論理的課題解決ができる生徒」の育成について

(意見1) : 数学は大学に入るためだけのものでない。大学の教育学部でも高校教員志望者はいるが、知識が不足している学生が多い。授業について、先のこと(大学の教養部レベル)も見据えて役に立つ人材を育成し、(教育学部であれば)教員として必要な学力を、つまり大学入学後でも通じる高い学力をつけるような授業をしてほしい。最近の大学生は「疑問を持たない」「(考えるより)丸暗記をする」ものが多く、「数学と物理が結びつかない」学生が多いという実態を、高校の教員にもわかってもらいたい。なお「科学的な考え方と主体的・論理的課題解決ができる生徒」の育成(グラデュエーションポリシー)の考え方は大学も同じである。各教員にも是非意識してもらいたい。
→大学入学がゴールでは無いということは常々話している。探究活動などがどう生かせるかなど伝えていっているので生徒にも浸透していると思われる。

(2) ICT機器の活用について

(意見1) : 授業を見学したが、生徒がとても落ち着いて授業を受けていた。タブレット端末を使用する授業も行われているが、AIで論文なども作ってしまうこの時代に、タブレット端末の使い方について、今後学校ではどのように指導をしていくのか。
⇒今後(研修会などで)校内で議論を進めていく必要がある。AIを活用する授業なども積極的に行っていきたいが、現実的にはまだAIを使ったことのない教員が多い。

(3) MSリーダーズ（ボランティア活動）について

（意見1）：MS Lとは何か。

⇒Manners and Spirit Leaders の略であり、Mannersは「作法」、Spiritは精神である。警察と連携した活動である。

（意見2）：岐阜市にはCSV という似た組織があり、中学時代から継続して参加している生徒も多い。クラス毎の人数指定などはあるのか。

⇒クラス毎の人数は決められていない。自主的に生徒を募っている。本校では約50名が登録し活動している。

（意見3）：MS Lへの参加は非常に良いことである。ボランティア精神を養い、推薦入試にも生かしてほしい。

（意見4）：ボランティア活動について生徒にノルマを課しているのか。

⇒ノルマは課していない。

（意見5）：ウォーキングボランティアの募集があったが岐山高校でも何名か募集があった。

(4) 支援を要する生徒について

（意見1）：「支援を必要とする生徒」とはどんな生徒か。→例えば、前日には学校へ行くつもりでいても当日朝になると腹痛になる生徒や、保健室登校になる生徒など。

⇒学校の教育相談係はもちろんスクール相談員やスクールカウンセラー、さらにクリニックなどの外部の専門機関と連携し支援することもある。なかなか簡単に立ち直れるわけではないが、それ以上悪くならないように支援しつつ、いろいろな道を模索する。支援を必要とする生徒は増加している。

（意見2）：支援が必要な生徒をどのようにして発見するのか。

⇒見定めは難しいが、定期的に行っているアンケートなどを活用している。情報はまず生徒指導部会で共有し、該当の学年会とも共有し、組織として連携しつつ対応（支援）をしている。

(5) インクルーシブ教育について

（意見1）：インクルーシブ教育の良い効果にはどのようなものがあるか。

⇒本校にも障害をもった生徒が在籍している。本人や周りの生徒がお互いを知ることができるのは良い点であるが、教員、生徒の知識が足りない所や設備の面が整っていない部分もあり、長所ばかりではない。しかし、支援の必要な方が生徒の周りにいることが大切であり、ともに生活する中で少しずつ効果があると考えている。そしてその経験が大人になってから生かされると期待している。

(6) 貴重品管理について

（意見1）：体育時の貴重品管理はどうしているか。

⇒各自で管理をしている。（貴重品袋の活用はしていない。）盗難等は心配されることなので、今後への要検討事項とする。

(7) 服装について

- (意見1) : 地域の方から私服登校になったが落ち着いた服装であると言われた。今後はどのようにしていくのか。
⇒校長と語る会には 50 名以上が参加し、服装の自由化への課題について様々な意見が出された。服装規定の改訂を認めていく方向で現在考えている。

(8) 交通安全について

- (意見1) : 自転車のヘルメット着用が進んでいないようである。
⇒今年度は交通事故が多いので警察と協力し事故が起こるとどうなるのかというところも含め伝えていきたい。そして危険性を認識させ、ヘルメットの着用を啓発していきたい。

(9) スマートフォンの使用規定について

- (意見1) : 校内のスマートフォンの使用について規定ではどうなっているのか。
⇒朝の SHR から帰りの放課後の掃除終了まで使用しないことになっており、各自で電源を切り、カバンに入れて管理することになっている。授業中は教科担当教員が許可した場合のみ使用できる。今後は生徒に自分たちでルールを作らせていきたい。

(10) 吹奏楽部の定期演奏会について

- (意見1) : 吹奏楽部の定期演奏会はあったのか。
⇒5月4日に開催し、多くの聴衆の前で演奏ができ、部員たちは満足したようである。

(11) 学校評価について

- (意見1) : 生徒対象アンケートについては、生徒自身の自己評価や生徒同士のアンケートを行ってはどうか。
⇒卒業生のアンケートでは 94%はこの学校に入ってよかったと回答している。グラデュエーションポリシー (GP) に関しての自己評価の機会を設けるなど、今後検討をしていく。

6 会議のまとめ

- ・全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・新入生アンケートでは学校の校風・雰囲気が良いという項目が昨年に比べ増えており、岐山高校のイメージはポジティブな意見が増えた。学校説明会を充実させた成果と考えている。このように学校説明会等の広報がとても大切である。
- ・第2回(日時未定)では、生徒・保護者等対象アンケート結果なども踏まえ、前期を振り返る予定である。